



不安をなくして安全に！ 雪道ドライブのコツとは？

スキー場までのドライブで、ヒヤッとした経験を持つお父さんお母さんは少なくないはず。雪道はどんなクルマも、誰が運転しても滑るもの。だからこそ、最大限の準備をし、細心の注意を払う人こそ、雪道でトラブルを起こす可能性が少ないのです。安全なスノードライブのための知識を身に付けて、自信を持って（でもは過信せずに）、スキーへ出かけましょう。



まずは準備を確認して 「不安材料」をゼロに！

タイヤ

雪道を走るなら第一の選択はスタッドレスタイヤです。シーズンに1回か2回しかスキーに行かないので……とチェーンを愛用する人もいますが、逆にはじめてスノードライブをするという人こそ、チェーンを付けるという慣れない作業は不安材料が1つ減ることになるのでおすすめ。

もちろん、スタッドレスタイヤは4本すべて装着すること。また、スタッドレスタイヤを履いても雪道が滑らなくなるわけではありません。滑りがある程度抑えるのがスタッドレスタイヤであり、装着したからといって、普通の道と同じようには運転できないのです。

チェーン

非金属製のチェーンが一般的ですが、商品によって付け方が微妙に違うので、とくに慣れていない人は、事前にかならず装着の練習をすること。実際には雪が降りはじめたり、とても寒かったりという条件の中で付けなければならず、出たとこ勝負、ではまず付けられないと思ったほうがいいでしょう。

なお、チェーンは駆動輪に装着します。つまりFF（前輪駆動）の車なら前、FR（後輪駆動）の車なら後です。一般にはFFの車が多くなっていますが、自分の車がどちらなのかを知っておくことは必須です。四輪駆動の場合は、原則として前輪につけます（車種によって違う場合も）。

ワイパー

アクセル

意外に大切なのがワイパー。ゴムが古くなっていると、雪がうまく払えずに視界が悪くなったり、ワイパーに雪が大量に付着してしまい、何度か車外に出て払わなければならなくなります。最近取り替えた記憶がなければ、スキーに行く前にゴムを交換しましょう。

ウォッシュ液

これもワイパーと同様に盲点です。スノードライブでは大量に使う

発進するとき、アクセルはそっと踏みましょう。とくに上り坂では強く踏むと簡単に空転します。カーブではアクセルを一定に保つことがポイント。車がカーブを抜けて直線になってからゆっくりとアクセルを踏み込みます。

ガソリン

雪山へのドライブでは、予測できない渋滞もあれば、吹雪に遭遇してしばらく動けないという事態も起こります。不安材料を1つでも減らすために、早目に給油しつねに余裕をもっておきましょう。

視界の確保と雪落とし

フロントガラスはもちろん、ドアミラーやリアガラスの視界不良は危険です。エアコンはDEF（曇り防止）にしておき、ときどき止まって雪を落とすことを心がけましょう。降り道など雪がもつたまままで走ると、後続の車を危険にさらすこともあるので注意が必要です。

また、タイヤハウスや泥よけに付着した雪は、ブレーキを凍らせてしまったり、ハンドル操作に影響を及ぼすので、これもこまめに落とっておきましょう。

し、バッテリー自体が古くなっている場合は交換したほうがベター。また、バッテリー上がりのときにほかの車につないでもらい始動するための、ブースターケーブルも必需品です。

スノーパン、雪かき用具

雪が降ってしまうと、スコップで雪をかき分けたいと発進できません。金属のスコップならば雪道でスタックしたときにタイヤの下に敷くこともできます。また、窓や屋根につもった雪を払う道具も必需品。用意しておけば冷たい思いをしなくて済みます。

手袋

軍手でもいいですが、寒冷地で作業するためのゴム手袋をホームセンターなどで購入しておく。便利。チェーンの取り外しや雪を払う作業のときなど、段違いの暖かさです。

雪道知れば不安なし 路面状況に応じた走り方を

わたちのある路面

除雪をしていない道は、車が通つ



路面の様相は時間帯や天候によって急に変化することも。つねに状況を確認して、それに応じた運転をしよう

「急」がつく操作は厳禁！ スノードライブの原則

よく言われることですが、「急」が付く操作はすべて厳禁です。急発進、急加速、急ハンドル、急ブレーキはさけましょう。

ブレーキ

もちろんブレーキを踏まなければ車は止まりませんが、雪道で車が滑り出すきっかけはブレーキであることが大半です。できるだけ一定速度をキープし、ブレーキを踏む回数を少なくしましょう。普通の道よりもブレーキを踏んでから止まるまでの距離が長くなるので、残り数メートルのところが止まらずに……ということになります。普段よりも、車を止める場所を事前にイメージしてブレーキを踏み始めることです。

カーブの途中でブレーキを踏むとかなり滑ります。これは普通の道でも基本ですが、それ以上に十分に減速してカーブに入ることです。

たわだち（轍）ができています。そのような場合は素直にわたちの中をタイヤが通るようにして走るのが安全です。ただしわたちに入るとき、出るときは慎重に。

滑りやすい路面

もっとも滑りやすいのはアイスバーン、つまり雪が凍った路面です。

右の囲み記事で述べたすべてのこと

をいっそう慎重に行かない、ゆっくりと走りましょう。また、アスファルトの黒が見えていても、路面が濡れている状態で凍っていることもあるので、とくに夜は目視だけで判断せず、走った感覚で判断するようにしましょう。

凍りやすい場所

建物の影、橋の上、トンネルの出入り口などは凍っていることが多いので注意が必要です。また、交差点も暗かれて滑りやすくなっています。とくに右左折する場合、黄色信号で無理に進入するのは厳禁です。

路肩

雪の積もった道路は、路肩がわかりづらくなっていますので、すれ違いのときに注意が必要です。路肩にポールが立っている場合はそれを頼りに、判断できないときは無理に進まないことです。